

宮 監 第 1 8 号
令和 6 年 9 月 1 0 日

一 宮 町 長 馬 淵 昌 也 様

一宮町監査委員 森 田 善 宏
一宮町監査委員 森 佐 衛

令和 5 年度一宮町農業集落排水事業会計決算審査意見書について

地方公営企業法（昭和 27 年法律第 292 号）第 30 条第 2 項の規定により、審査に付された令和 5 年度一宮町農業集落排水事業会計の決算並びに関係書類を一宮町監査基準に基づき審査した結果、次のとおり意見を付して提出する。

意 見 書

1. 審査の対象

一宮町農業集落排水事業会計

2. 審査の期間

令和 6 年 8 月 20 日

3. 審査の場所

一宮町役場 4 階 議員控室

4. 審査の方法

決算書類が地方公営企業法等に準拠して作成されているか、計数は正確か、併せて本事業が地方公営企業法第 3 条に規定する経営の基本原則に基づき、適正かつ効率的に運営されているか等に留意し実施した。また、例月出納検査や定例監査時における検査事項を参考にするとともに、関係職員から詳細な説明を聴取し、総合的に審査を実施した。

5. 審査の結果

関係各書類は地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成されており、係数は諸帳簿と合致し正確であった。また、担当者から詳細な説明を受け、適正に執行・運営されているものと認められた。

6. 決算の概要

(1) 業務の状況

令和5年度の処理区域内人口は、2,073人で前年度から41人の減となり、使用料徴収の対象となる有収水量は239,080 m³で前年度△1.5%の3,735 m³減となった。

業務量

区 分	令和5年度	令和4年度	増 減	増減率(%)
年度末行政区域内人口(人)	4,030	4,075	△ 45	△ 1.1
年度末処理区域内人口(人)	2,073	2,114	△ 41	△ 1.9
普及率(%)	51.4	51.9	△0.5	△1.0
年度末水洗化人口(人)	2,073	2,114	△ 41	△ 1.9
水洗化率(%)	100	100	0	0.0
有収水量(m ³)	239,080	242,815	△ 3,735	△ 1.5

(2) 決算報告

① 収益的収入及び支出

収益的収入は、予算現額1億5,038万1千円に対して、決算額は1億5,570万1千円となっている。これは主に、営業収益の施設使用料が予算現額より増収したことが要因である。

収益的収入

(単位:千円、%)

区分	予算現額	決算額	予算額に比 べ決算額の 増減	収入率	決算額の 構成比
第1款 農業集落排水事業収益	150,381,000	155,700,891	5,319,891	103.5	100.0
第1項 営業収益	40,207,000	45,526,998	5,319,998	113.2	29.2
第2項 営業外収益	110,174,000	110,173,893	△ 107	100.0	70.8

収益的支出は、予算現額1億4,442万4千円に対して、決算額は1億3,929万2千円となっている。予算現額に対する執行率は、96.4%であり、不用額は513万2千円となっている。不用額の主なものは、営業費用の処理場費であり、修繕料や委託料などの実績に伴う執行残である。

収益的支出

(単位:千円、%)

区分	予算現額	決算額	不用額	執行率	決算額の 構成比
第1款 農業集落排水事業費用	144,424,000	139,291,896	5,132,104	96.4	100.0
第1項 営業費用	138,449,000	134,316,674	4,132,326	97.0	96.4
第2項 営業外費用	4,472,000	3,972,602	499,398	88.8	2.9
第3項 特別損失	1,003,000	1,002,620	380	100.0	0.7
第4項 予備費	500,000	0	500,000	0.0	0.0

② 資本的収入及び支出

資本的収入は、予算現額 3 億 4,419 万 8 千円に対して、決算額は 807 万 8 千円となっている。

資本的収入

(単位:千円、%)

区分	予算現額	決算額	予算額に比 べ決算額の 増減	収入率	決算額の 構成比
第1款 農業集落排水事業資本的収入	344,198,000	8,077,700	△ 336,120,300	2.3	100.0
第1項 企業債	138,000,000	3,600,000	△ 134,400,000	2.6	44.6
第2項 県補助金	203,598,000	1,877,700	△ 201,720,300	0.9	23.2
第3項 負担金	2,600,000	2,600,000	0	100.0	32.2

資本的支出は、予算現額 3 億 7,026 万 5 千円に対して、決算額は 3,406 万 2 千円となっている。予算現額に対する執行率は 9.2%であり、翌年度繰越額は 3 億 3,620 万 2 千円である。これは、原地区処理場の改修事業を次年度に繰越すものである。

資本的支出

(単位:千円、%)

区分	予算現額	決算額	翌年度繰越 額	不用額	執行率	決算額の 構成比
第1款 農業集落排水事業資本的支出	370,265,000	34,061,870	336,201,560	1,570	9.2	100.0
第1項 建設改良費	341,917,000	5,714,500	336,201,560	940	1.7	16.8
第2項 企業債償還金	28,248,000	28,247,370	0	630	100.0	82.9
第3項 その他資本的支出	100,000	100,000	0	0	100.0	0.3

当年度の資本的収入及び支出は以上のとおりであるが、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 2,598 万 4 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 32 万 7 千円、当年度分損益勘定留保資金 1,963 万 9 千円、引継金 601 万 8 千円で補填された。

(3) 経営状況

総収益は、1億5,156万2千円で、その主なものは営業外収益の他会計補助金及び長期前受金戻入である。総費用は、1億3,548万円で、その主なものは営業費用の減価償却費である。以上により、総収益と総費用を差し引いた1,608万2千円が純利益である。

損益計算書

(単位:円)

区分	収益	費用	利益／損失
営業	41,388,180	130,312,623	△ 88,924,443
営業外	110,173,893	4,165,108	106,008,785
特別	0	1,002,620	△ 1,002,620
合計	151,562,073	135,480,351	16,081,722

(4) 剰余金計算書及び剰余金処分計算書

① 剰余金計算書

ア 資本金

前年度処分後残高は、3億790万8千円で、当年度変動額がないため当年度末残高が同額である。

イ 資本剰余金

・ 他会計負担金

前年度末残高は437万4千円で、当年度変動額がないため当年度末残高が同額である。

・ 国庫補助金

前年度末残高は7,773万3千円で、当年度変動額がないため当年度末残高が同額である。

・ 工事負担金

前年度末残高は1,242万6千円で、当年度変動額がないため当年度末残高が同額である。

ウ 利益剰余金

当年度1,608万2千円の純利益が生じたことにより、当年度末処分利益剰余金は1,608万2千円である。

② 剰余金処分計算書

ア 資本金

当年度末残高は3億790万8千円で処分がないため、処分後残高が同額である。

イ 資本剰余金

当年度末残高は9,453万3千円で処分がないため、処分後残高が同額である。

ウ 未処分利益剰余金

当年度末残高は1,608万2千円で議会の議決後、利益積立金に積み立てるため、処分後残高は0円である。

(5) 貸借対照表

① 資産の部

ア 固定資産

資産は固定資産 16 億 8,882 万円、流動資産 4,933 万円で、資産合計は 17 億 3,815 万円である。固定資産の主なものは、建物、構築物、機械及び装置である。流動資産の主なものは、現金預金である。

② 負債の部

負債は固定負債 1 億 1,516 万 3 千円、流動負債 4,337 万 6 千円、繰延収益 11 億 6,108 万 7 千円で、負債合計は 13 億 1,962 万 7 千円である。

③ 資本の部

資本は資本金 3 億 790 万 8 千円、資本剰余金 9,453 万 3 千円、利益剰余金 1,608 万 2 千円で、資本合計は 4 億 1,852 万 3 千円である。

(6) キャッシュフロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フローは 3,079 万 8 千円、投資活動によるキャッシュ・フローは△91 万円、財務活動によるキャッシュ・フローは△2,474 万 7 千円で、資本期末残高は 1,696 万 7 千円となっている。

7. おわりに

今後の事業運営については、処理区域内の人口減等、処理収益の増加が見込めない中、老朽化した施設の改修に取り組んでいかなければならない。使用料の値上げ等、財源確保に努めるとともに、計画的・効果的な事業を推進することで、持続可能な運営に努められたい。

以 上